三
文書

へ遠13
2.023
2

大読堂

娘節用二編叙

いろは丸、其園集を、日園の内室家
みしるす。士岩主人、朝菊青の引き乾坤城侯
草木を立て敗、何ぞ拙孫十余部人分り
四声を書て、和くこゝろのゞ書籍し思ひ
法の多後を名まゝ。娘節用を、
何ぐいとこの面、言ぐこの茅こそ

酌の酒屋を販元寶[illegible]元編[illegible]
色氣[illegible]。[illegible]の趣意と寶[illegible]の
[illegible]。[illegible]編[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]の義理[illegible]。[illegible]
向。[illegible]の魂[illegible]。[illegible]の腹[illegible]。
帶[illegible]。小三金[illegible]。[illegible]
[illegible]の約言[illegible]。[illegible]。

さんかもぐも[illegible]。[illegible]の樣を
稿本へ[illegible]加へ補[illegible]。
朱墨を摺[illegible]。[illegible]を
[illegible]。

江戸

三文舍主人戲題

愛大明神

假名文章娘節用後編上之巻

江戸　曲山人補綴

第四回

そもそも又。千歳屋の真衣寝ると。珠のふこふ名のりあひて
より。かふるりつるゝ。まろしてゝ。いとまつまく方の母を
かゝゝひてゝゝせゝゝ。かひてつき。の附分より。さる
うゝく　あきびと　いんきょ
を徒の商賈の。隠居ぐふゝく　ぐ　こ　ぎ　ふ　ぐ　ふ
るゝ源氏ふ。よゝく世徒をる　ヒ　ヒ　ゝ　ゝ　ゝ

美名寝をかの強弓ふ文出さまと向しなの遠ふ朱くと
世を送る身とありふるさまとば月日のいとと速ふて
ゆくるこ月のころふハふさんハちやゆゥ月ふるアしうえ
産後へ出さバ表もふける又ハ無理ある酒も春むゆ
身のこゆふあるべしと金丸らハ顔像屋のあと
ふゆけ食些のふ身の金をつゝへしてちろきうちふハ
文出さそとふ表のさしきへ出さあゆうふとと
のくふあるド金丸清もさとうを輝る男由ふ

早速ふ家紙して。いと深切ふ引ってけ。ゆくて金出
帝へふさんを身文の金とそのくんと。さるくふ忍接
しうしゅう。のとよう大金のゆ身きバ。表又文
次帝人うち咲ていゆべきゆうもるうしゆふ。いろふゆ
せんと花や衣ふ。ひとり狗のくろるしゆしゅ。ゆうくふ
忍接をあぐらして。京師の又文の恵うえひそろふこそひ
遊りるへとの祝三条のふ張治宗近の銘作ふて大ふ
のきうひものあり。弟ふ焼刃世ふもぐき。ろぎりのふて

その夜更る。一色とのゝ方なるゞめとり。あゝ武士の
ゝ一ゝ。行こそ見とゞめふ入さき。内くみて衣の
金ふ。はゝ〳〵ゝ行ゝゝゝふと。ひとゝ〳〵ふ衣をの文面
中ゝ。文〳〵悪もいとひそうゝる。一人のゝの金ゝ。
いつゝりゝりゝといつゝ者ゝ〳〵。まゝて者ゝべゝゝふゝ〳〵。
よき仏ゝけ来ゝゝゝく。年衣を徒げゝゝ。ゝ祝の
ある由ゝ万ゝ刃きゝふゝ。ゝゝ〳〵で。仏ふゝ〳〵せゝゝゝち
さゝそゝゝんゝゝふをゝりふゝる者ゝある祝ゝゝふ。

あゝ〳〵百あの金をゝのゝふ髪ふてひそゝふ金ゝゝ
のゝゝ文ゝゝゝ金備ゝ金ゝゝゝゝゝのふゝんゝ
兵ゝゝゝ刃ゝゝゝゝ祝ゝゝゝふ可ゝゝゝゝ
ゝゝくゝゝゝをひゝせんゝゝ者ゝゝゝ金ゝのゝ
ゝゝゝ非ゝ〳〵ゝゝゝゝゝゝ刀ゝゝゝゝ金ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ書ゝを送ゝ〳〵ゝゝゝゝ地で金ゝゝ
のふゝゝゝゝゝ者ふゝ〳〵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝふ月ゝゝゝゝゝゝ

ふさんハきやくの月ゞ除月ふるゝ額債主の
重云来支物も除義ゝ乞ゝ欲をえるまてふこ
をいくこゝろ絶ふ金五ゝの祝のゝもゆとうるこ
ゝるゆゑふ多附の金を元ーのゝみて残の金いうけ
元れどゝゝふあやぶむとゝるゝ養の多寡を行金と
のゝるゝこゝ自くまゞもて安養をゝそいのりる金五ゝ
いめくまでも額重支物の除切のひとゝゝるゝねば
ゝゝもゝやく牙債の金をゝうて人どゝきも

自由ゝるゝゞぴとり狗をぞゝるゝあけゝゝれ月ゝもて
ふさんハ玉のゆうゝる男ふを養ーゝゞ金五ゝをさゝゝ
ゝり。額重支帰もよゝゝぶゝ大ゝゝるゝゞぴゝその名を
金の分と名付ゝゞ。ゝ祝ふ仙てゝゝゝ人ゝゞ金ゝゝ
ハ日ごゝふまて。ふ三金之助の墨ふひゝゝゝとゆく
ゝゝく元もゝちゝゞぴ門ふゝるゝハ締ふて額重人のゝ
ゝゝ。白箋ハ赤仏の。文之赤ゞ石牙拭ふて大かゝと
ゝゝ苦労をゝゝゝハ。秘義孫の金五ゝ。ゝゞゝゝふ

るりのぬせんうとぷきらく　おひみ　ぬうしみぢうきとろへ
みを門。門をみと乗つろぬも。そどめのそどへ装りの。
るゝしとさのこゝろがもせど。うち捨ておきけるみ。漸く
ふつのるゆえ。かくてハ身のうあるべゝと。おりみてある日
ゆきの乗るみ。孫娘のお雪ふ琴を弾せ。とおとろるらし
ゆきゆゝるゞ　きせるとそさい　「コリヤお雪よ。モウ琴もよいみ
ていあきふむこ
るゆきこのこハ大ぶん上達しゝゞ。ぜいぶん身ふしゝて
るゝふうよいぷ。もおのゝゞ琴をきいて。失きふうさを

ちゝゝまゝゝ。年がよるとおつまりのでぶ。何もこの
しゝこゞるいうゝ。お念仏でもアしてうり。おのゝゞ琴やと味線
をきくのゞぷふうよいるぐさゝゝゝやイヤそまハさうとアノ
金五郎ハ角ふあるうのトとなきハ琴のつめを　「ハイ　お兄
きんいぶ　紀屋ふお出あそゞゝまゝゝ。ぷんぞ出用でござり
まゝしう　白　「すくさゝゝる用もみけまど。ゝゝゞ今茶を入る
うゝぷちとさみゝふ来いと味ほんで来やま　「ハイ〳〵ゆゝとう
まゝゝぷ。お坐ゆてまるりまゝ。琴をうゝとせ出て汐くり引
ちゞへて金五郎を紙屋の

白髮の乘物
「ヲ」金丸ゞ。サア〳〵めつたこうち〳〵来る。茶ゞ
出来〳〵一ツ呑ミやと。茶菓子みたいなひ陽茶〳〵
頂戴〳〵このをとつてあるいつふるらぬまつ〳〵さふ金丸ゞ
のつい白「コレ金丸ゞ。おぬしも茶をのをつてよもやまのえを
ぐ。今ゞ血乳のさう。老人の
りふといかりしろふあるまいゞ。マアよふきて中と。おつまりの
でゑをかりふい親の老で。貴い紙ひの差あへないりの。
さきゞうていつのひでうあつこう。上方〳〵ゞ拡ゞ者さ世
あちらへ一徒風ゞ者ゞ。さうらふてよとうさもやうや

おぬしを業ゞる中乳をつけてくまとあるゆでおらう。
ものとおりおぬしもひとりの叔。又兄弟とても和ふを
るし。めちろん文ゞ無ゞ者ゞあるおぬしまでも。ぬくし
ていあるゆまゞ。お毒と中〳〵いふ容貌よゝき嫁を叔ゞ者ゞ
ふあらくてそゞてあげ。ゞゞひふ兄弟の中うふしてぶくゝぬ
中であつことやら。そのお毒でも例ふゆゝう。又まぎれ
ゆもるらうけまゞ。そまとてもゆゞ者ゞ。生元の
ゆゞもゝ〳〵ぬとザ。ちゝうとありやさいゞでや。行をいゞ

てもこちらのふ雪ハまだ一向のゐどもすり門ゐるても
おのうくあるまんぐ今でハ文ゝ恋もかめしをびこちく
めらひうけてゝハ。お悪もあぬ人ゝあ〜〜ふ。ふすハ
コレそうたぬうぢやゝ。ゐるい耳をきろせぬゆうふ。せふ
やゐ〜ぬぐ美いうちハ。利ゐるものでも坐づハ。ゐふあや
まりの出来るもの。りつともあそびるどハ。ぬんくの
近ゝ猪ゝ多。暑さ寒さも行ともあるふまハぐ。まゝ
門でいさういるハ。ゝとの寒いゝ出てゆきそくさぐ風でも

ひきゝ入れをよいぐ。我ぐふけてかくゝねハ。寝てゐてもろく
れゝとび。人の足音のもるゝびく〜ふ。ゐつゝろく。門をあ
ゝで遠入ゝゝとぬのゝと。引ゝて耳をゝてきゝてゐるぞ
やゝおいぶんれふゝハ附あひるどでおそびふもゆぐ〜ーサ
美いうちのゐるとバゐるんでもゐるるでいるいけどこの
ぐろハあまりふとうじくさぞやゝとぐつのゐとゝくハ
モウどうゐるつてもまりの川と。牙のをさまりもつうは
やうふゐるものぐろくふまくハ門ふるてえんゐのれゆ

ちつとハやまあるゆうふ、ちあまとぞのらくるるといハんとも
承知してゐるであらうぞつのつぬゆうふ、ちくごうよいト
のくらいゆうでもどこやらくうどのくまとてるいけん
九あくこまるでつてとぞやるくうきに矣元ふ金五くハ一袁まもの。
かくにとぞもるゆうりーぐ 金「ぐんくの市矣見ふ根ふ徹し
まつてやくと上るとぞもどぐうりません。これまで種くふ
ほ苦労をかけまくさハ。童く分のあやまり。おあるし
みきとてくぐさりまート あやまり入くるをりくふ「モレ
かあふいさまへア上方くうお使ゲまのりまーくるヨト

雪より金五くハ使うれくる。ちまうふとびくうまちさと。
ちくまでと狗ふをーかくー 金「ナニとぐさくー人ゲ来ち
久トのふみ白袁も き耳ぐくー 「ヨくるんやと上ぐさくー使うゲあるう。
今も今とてうちちを市ち処。ちやふ金五くハ行てえ申とト
ちくもる 金五弟ハいそくーくて去矣ふ五出。使ひふ意く
ぶ ぶうけえぴくきて見きバカをのとまる金一色ハ使ひの
りのふ指せつちーけへぴあくーくあくうけえすそべくと。
とあくーくといひ送ちつ。粉千ふ出ハの射しのあちう。隙長

白紙への出番も出しうそ。その拙い白紙のところへ、
さー出ー。あの一封の金をうけえ。おのが部屋ふ入りて
返事をかくてゆ。使ひの者いへーろう。金五ゝをあの
一封の金をはしろ飛ろぐりふ。よろとびてまぐふ
横中ー。主人として中の男をえとべ。お雪へひとり
一ふふ。人形の美相を繰ふ。金十ほふ
ろりけとどようづうちをみーて。あどけ ろく
容貌ろちゆうろ。出ぐそきへやさーけとど。

ふさんふろゝべてハをとるるべー 金「コウ お雪ぐう。そもハ
このあいだの人形ふきせる美相クト 雪「ハイ
あるこふらできまー。人形のでぐりまも 金「そもハ
いだの。あもハ今出て彩ろゝ。おぢいさんやかろうさんが
お坐なまろゝ。今仏男ろゝ よびふ来てまあり
まーとぴふぐろゝ さうろてろんるよト 歌ハ
ヨヨひ 「ハイ」 ゆーとまあり中ー 金「なぜそんるふ
ヨらふのぐ 「そもとでゆ お仏男へ出出あてぐーさと

ゆきまして　ものおめくりぐあ　おあそび　ひとりそごと　おもひあて
ごしませう　「何さあとでハ又どふでもいひやうぐある
ろういろ。楽ごとさういろよ　「ハイ　さやうるろ
おそやく。お師ろあそぎまして　いふふ　今ろいおてゆくいろぐ
て　あきのうぐいさちいで
「おぢやうさんるふをあそぐまして　「とろくどれい
この　はあいぐ　おあふいさんふ。ろでらろ　人形の　ぎあざよ
「のういぐ　おげんわさるあいぢろもあそぐまし。
いろまでもそのやうふ。わさるぎろう　かるいぐろく。

どふしろ　あでぐざいまそ。今ふ　若旦那さるの奥さるふ。
おるりあそぐ　お年でろふ　「ヨヤろぐいやるとと
おいひぐよ。あとハおあふいさんざものを。そんるといるり
ません。さろしてりうぐとふ。奥さるぐ　お出ざよ　「そま
ぐろしあのやうふ。お門ふとてい片付も。お出あそぐ　空い
るくぞとりふもおまんさるぐ。りうちろとをとるらしし
あそぐぜぐよいふぞんのわさるで。若旦那の女ぐひを
あそぐんを。ろしぬ　新で　お出あそぐんろ。そさろいやう

おまちてくるまりませんといいまして おやきを楽の
どくそうふ。新とあらあて狂あばん 「そもそもでも アノ
おあふいさんハ。おぢいさんやうるさんふ。まるの みからう
づらひとあそびそう〳〵。おうまいさうざものを。ちつとも
出縁表のおあそびを。あそび〳〵てもよいでいるいえ。「それ
ハ又おまたこそ。あるさいおあのお娘さま。若旦那さまハ
お血まちでも。出表みでぶらまんもの。お仏づらひも
あそばせ茶とト。おもおりひの長焼もち

弐ち〳〵そんこのうをひとおろ〳〵まるよ。上げさの伯父さんの。
まことのお表ハ宝ざろ〳〵。おとうさんよりおえさんぶ。
大切ごとつれぐろ〳〵。おつろさんがあつ嘉つことト。お供
ぶふ。金五ろを。大ふ。ふたるぞいぢ〳〵〳〵。さても
金五布ハ。伴の食をうづさえて。飛ぶ〳〵ふ額依屋へ
ふりて。ある〳〵まを来ま来ま。ふさんの分の代とぞ〳〵
〳〵見まぐひとかさる〳〵〳〵。世作ふ。ろ〳〵と屋く報ひ。
更よりくちふまを柳橋の。意ある楽門とふ。料理屋の

裏ふ表をあらため。選択まで也考察ふしてらの表ふ
ふさん金こを乳母をかく婦女をおきて
俗いせけるふ。ふさんハ也ゑ也く。毒液をこ〳〵北土のこ〳〵
ふさんいつく〳〵行きゑを。考へるとべ金五〳〵も。表ふの
身ふて。この身を大ごゝ。金く分や乳母下女まご。
えぐまんを大ゑへるこゝ。不論身ハおちぶまて。
一旦廓の芸者〳〵て。人ふも顔を又ゑ〳〵まゝ〳〵れを。
今さ〳〵形〳〵をゝも。誰ゑ〳〵ぬもみけまべ。

女のまるぐふをろ〳〵きゑも出来れだ。まゝこのゝとの
じへゝや とゑまべゑれ〳〵ゑ女。さの〳〵ふゑれべれもとゑ
ゑ〳〵ご筋の表の世ゑゝも。義ハ身を助ゑゝと。ゝ人の
ふ〳〵も金五布ゑ。せゑてハ心やゝとゑ〳〵ゑへハ金五〳〵へ
表狗をゝちあけてものゑゝまべ今更一旦ゑけ出せ〳〵。
ふさんをゑてび家へ出さんハ。人のおゑゑ〳〵世のそ〳〵りも
ハをゝ〳〵ハ女人ども。万ゑ心ふまゝせゑ也。冷方ゑゝて
乳引けとべ。ふこハ老より又ゑとの。かゝり死さ 唄歌

とりて客の相手をしゝ。客臭のまぐさ座ぶち
みれば。引手あまさふいよく。えらり。内ふ看る入るり
けを。ひゝの乗月のまるつゝ。ふさんハ金の分を。
かきいざき。その分もこゝへよこふるり。出せぬ乳を
ふくませて。ねんころく。と臭うゝを。ゝふて藤ろゝ
つけてゐる。そのかゝふ乳母のおちハ。火鉢ふ煙草
をこゝらへるぐゝ金の分の財布を。繰つく。みるかるとゝ
金立ゝハ。表ゝドをあけて入り「ヨヤ入ゝ。あやいまゝゝ。
きるとゝ。ふんハえてゝ。とあげ

さぞおさむゝぐぐりまゝゝろゝ。金立さうよ。ふんざろ
ひどくひへるのふ。ぶうぞめハ又ひる藤ろト。いいるぐゝえぐろぐ
巨燈へあろて藤ところべハ。ふさんハかさよみてこをこと
まひつけ。金立弟ふ。むゝ「ゆゝ」おまへさんこのの扉ゝ
家中のゝくこのぐ。ありまんぐアノお雪さんふあげ
まゝてハるふぐぐいまをゝ久。金「ナニ。ゝるくもわへがあんふ
大きるりのふ。ゆるよりハ。ゝえておいて。坊ふやるぐりく
ゆゝ「そまでのこのふハ。あんまりあまろゝて。ゝるゝふ

ごぜんまでそうぞんか甘露梅もありまゝろう。一ふか
してちぢいさんのところへでもあげまをまうろ「ゑ」ぞうがひ
わくゝ衣紋食表装ふぶとをりふかさい内へ花街ゝゝろ
とめゝ出されるめうるトいまそふこいろゝろぶき「ヲ」あゝゝ。ゑんかさう
であうまゝゝこれそまいさうとアノおゆきさんいさぞ
おうろゝゝくおるりるさいまゝゝろうね「さ」ゝさまん
ざゝでいわくけまどゝまゝゝ一向のねくさるるう。どこのゝ
人とゝゝぐていとてもゑだわく論すよトゆびのさまでか
さんの姫とりを

つかはさんハ「又」そんまふゝゝしいとと。夫でもモウ女とふあい。
ふめちふるるとき乳もるくるう。つまゝゝぬのであり
ままわく「ち」ぢくわくぎまゝゝぐくつてもけれゝあまそ
状ふぢのふぢアトこゑをかくとべうぞ「ヲ」ゝゝゑんかさまうでど
ざいまゝぞゝゝのやうふるつていけまをせんぶは彩選え
るどいとれゝゝゝゞ行ぶでどざいまを「ヲ」ヤいやよ。夫でもかつる
めでゝ子供ふかまけるとゝべゝでるくゝ考むさろゝてゝぞゝ糸
るゞゝゝ婆ゝアどゝゝとおりふのゝ夫ゞゝゝ登ゝゝきゝへ出

てもお客がうんみらるゝ。のみとぼめち山姥ごきんのと
のふゝ〳〵ぼゝ〳〵の文をゆうぢりをしてがいふ唄を唄つてゐるよ
唄うたいけこ二ぢくるいぼ頂天までのぢりつゐて祝ふ若労を
かけるへぢうよぼをもつて高る祝の恵そど深いものゝ
るいまくるを」「ゝと人金銀で富士の山つむともふゝ易
らるあぼんふ世の中ふゝどかるゐいものゝるい」と
唄ふ西京中ふゝむねきみかあゝぼらへのゆうるのの
みやゝぼゝくるゐゝ出来やゝ去あゝぼとりゝのを屋と

ひつてもぼできるのゐんのとぢ〳〵ん人ぐあるゝ〳〵ぼるゝ〳〵も又
まけぬれで。味噌をあげるゝやゝるいけどぼかゝゝ人と大ゐね
を打てぼゝらくさゐぢゝ〳〵出来食のゐゝぼちゝとちぐひ
まそとゝひまゝ〳〵ぼゝ色れぢるゝつてゝとゝてぼんぢ
ゝぢさるゝ〳〵おゝ〳〵ゝのサ「へゝとんざゝ〳〵ゝりのゝひえざ
ゐんふゝのぢゝぢやゝぼゝつさゝゝぼゝ遊若ふゐつゝよゝ
で。おゝゐゐひまくゝるゝト「ひつてれてゐる金の分がゝゝをひきゝゝを
「アレまくさゐんるゐゝぢ〳〵ぢゝゝ。ぼゝ〳〵おゝ〳〵てゝ。ぼゝまゐ

みをうつ。せうくよく寝ろーつけまーさめと（今いまあ）
まりひるねをすると。昼ひるつて目をさましろ〜。やうはし
ろうてねーとれく（おまへさんさんでいあるまい〜）（今ごく）
（ふぜもよくできまーく。あるみたいつでもひるまでづおよう
ていお起みをうて青ッたうをるさるものを（今ごんの
ふおうても。おううれあるさ時分ごろ〜。アレ横
げんのいるをえる。おとゞ紙をえちやアふとくろ〜
ぜ。ふうくいの坊ちやんぐゼト（今の坊の紙をるでうや。おううアの
やうふうへ泣みるつちやアいうわんぐ（ヨヤけーろ〜わん。
ろうろうあるさふ知ろ。祝ふ世張おりや毒せうと
いひるぐ〜ごどろ　お行や何をしてあるう。坊ろ起ろ〜
のうをむあく　ちつとぐいておうとよ（下ヤ）（ハイ〜サア〜）おぐうさんが出て
みさへまー。アラ　お乳母どん。ろさーやア今おぐうさんを。
つとやて恵逐院へ行てあをぐ毒ナをう〜。アラ歯入やゞ
来ろ〜。ゑゞ〜の下駄の歯を入させて。おうんなさいよ
（ウビ）アイ〜。そをいいゞ。お泣みをうろ〜えやくおなりよ。

お怪我をさせまさうぞ。ヤ　アイそんるの
那てまあり生せうト　お井ハそこへ出て居りまして　ヲヤ
おさぶさん。丁度よい所ぢよサア　おあがり。姉と今あそびふ
ざ生ーこうこの所ふちようと結ておくとる　そこへ丁度
よふでぎいまそれ。ヲヤ且那お出るさいまー。この所ハる
ちがひまーてさうなりお月ふのうまん　そんふさうさ。るん
ぐろ意ふさもーなつそれ。モウこんるふこうろと貰つひきを。
ちるやうふるつちやアいけねくのサ　ヲヤおまへさんそんる

とをあつーやるぐこうろとりふのいい根あでちよんの所の
楽ーてグありまもよれくふこさん　「るんぐされおさぶさんかつる
るをおいひでまい。人の鼻をこちるやうふ。こうーらアそんる
といきーいサ　ヲヨウおさぶさん。おまへるよろ不ど姉おれぐれ。
るるわどちようといちやうくふ。まんぎーつるくれくやつき。
冬の色ふいこうろで出来るやつぐいろーも　あるのさ
「りおろーくもるいそんナまるーへ。りおよーるさいれ
でまちもそれ。ア　おぶさん。今ふ菜花ぐでちるろ。千間徒て

おくとみわくトこれようおさまふこの「ふこさん」さのふハアくどこ人おも
ゑもうこ人「ふこ」さのふ人さのふハ舟で西の町へ行こうね。丈ごろ
いつもより髪ぐどいるーふるつうこのサ　金「ナニさのふハ舟へ行きう
髪ぐこりとことそのつハちとあやしハ「ヲヤ」且那ぐ何うなう
しるよ「又」おやさぐまでまうさぬぐ〜〜ぐどがいません
金「こまぐやけわくでとうまるものう。あ人のわく生巣ざりの。
どんる人ぐ弱ぐしまやア去わく、「ヲヤとんざ寛と来るりんざ。
さとんどんる弱人ぐあつて。鮮奥をどん〜〜まけばとそ曲つと
升ゆアかりませんよ。ぐりうさうハ　金「へとんざふで
まきむやつよ。あうゑぐ重兵をまるやうオトやうろてあるうち「ふこ」ア
やア茶いまぐ出来ぬ人「ハイ」やう〜できまうと「ふこ」ん金〜
金「ワあげやうト　金「ふこ」のまうをとうて「ふこ」「ふこ」ハ大ぐうさゑモウかうまし
ゑさいまそる。ゑんオ且那へ行ぐうオ新又世ハどうてどぐうまん
金「そうーも叱るう〜さうのつてあるのサ。ふこまえ人とりふう〜
「ふこ」オ出ゑ。四五日のうちオ「夫」ハあうぐふこさいまそ来ると
ふいうてあうまそよトいよとうハのあ人ゑ者「モ」ふこさんへ。ぐうの

お間き兼ねが。夕方行くように戸を開けて。爰てらとろとろいてあくり
ちゃくよ一ヲヤさうろ人。ふハお茶の花のやくそくもをぢろ
ちハ兼ぐ文るうろとろで。お生人の行うへ赤ちうよ「こん
るうのちゑど法楽内をいさーちせうト「ぢ五」ろと
くもちのうちせう。さうるうふこさん。又明日トあいさろ
して。髮ひかるぞハかくうけり

假名文章娘節用後編上之巻終

假名文章娘節用後編中之巻

江戸　曲山人補綴

第五回

ふこハ条門よりにげかくれども多繞巻元出し分
ぎまひの。紅粉おしろいもふくくハせびちろと化粧で
振笄飾ぎ一本うしろへ銀の細うちだかりさして
いきみつくりのいやこるう。金五帛いぶ抜しておろふ
あうれいうし振ふれふこんハ戸抜ちうかいまき出し

そうとうけて枕をあてがひ。そこらのぐづけ金五ふの移れと
さんで戸棚へあまひ。火鉢のそばへ。さぶとと一ぷく
のゝ。そばふある浄るり本をよりあげ。よこるゞ乳
母とそるゝ「コウだアやよ。こんるとをいゝ〳〵まゝつま
らぬるとこゝらへざらうゞの。水のみゞまと人の汚をる
わど。定めるいあいよ。此浄るり本の三稽古人をゝ
こゝの身のうへ。似てゐるゞりいろと落せの
義理ゆかゝらまど。どんるとれゐるらゝもゝまど

マアさうるつゝどう者とゝ苦労かるいけとど。
そまだうゝゞ楽ゞらまて。人の知ぬ狗をいさめる
よト「アレまさゝてもゝ。
そんる差ゆもそぬるを。ろゝしやるのでいござりません。
その三稽の身のうへ。そまとのるんの裁作の。今どき嫁
切ぶのるんのかのと芝居うまる本でいあるまい。
どゝしてそんるとゞあゝまんのゝ。さまいるいる
だうゝト「ひまぎゝせど共ゝぶ
ゆさんもむれとるでおろゝ「そんゞゆさうのいごそんるわ

作ねとハきうくも。分ハつまされて繰言いふぬぬうり
女のあさましうも名金訪といふみまであうめをぬ中あ
ハいるゝ〜ばとも。来のさるまで深とげゆうとおいで
るんとせうのゝ〜のるぐあうゝ〜だ。更い又その時のと
きうゝ〜楽〜まのくト えるまるへ楽門うふ そんうゝ
だアやア。行て来うゝ気をつけておうとよトしうゝ丸ハア
坊ぐ。ゆつてこうゝぐ乗るうゝ。又おうさんをいぐぐら
うゝうゝアノたのちゆうふうぐゝ。あとをやつてぐる

しておうとぬうゝ〜ぐ又ゆくうゝふぬんぞおち養を買て来うゝ。
そして義旦那ぐお月ぐさうゝ。たうゝさお茶漬を上らう
うゝ。猪焼でもえてあげておくとト 女房うゝきぞあうゝ 勿
まで更やうぐるをを。おるるふかけるむうゝ。巻〜き入出てもふ
ゆくふ。門のるゆのゝ〜楽ぐうるまど。勤といふ字い毛筆あくも。
いやるゆあふも横げんうる。むの中ぞつ〜ふ〜ふ。ゆゝく
ふさん金五帝ハぐ金の助の毛ふおぐを。作るゆるゝ書
をその年ゆうとて又来るまぐをゝ。たるびく空も

うらくろる弥生みうたのうるぐ。金五ふハ仲間の若ふ
さてをきて。向ふぐ岡の死えんどりの不ろ酔みこるく
毎ふうちのうて。まを杓搗きでまくぐこてうよろく
金五ふハ人くふころうとて可助といふ。供の男を引つて。
条門の家へ来まだ。乳母ハ金く助をいぐきつ。かくと
ゑるようをくくう「ヨやくおぐうさん。アレおろうんぐ
入くつをいまくとよ「ヨく坊ぐ。ぐうこうて
いのふ。おつうアハ内ふく「ハイ お宿でぐりまを

サアおぐうさん。おろうさんふおぎうくペイ出撥ぐんよふ
とヨふくイヨくおろうさんふぐろこいるりまをん。ゆう
まうくふるうまをう。お森んねぐうふぐりまん
金五「金ぐうやおろうさんハおうろうさんのとく汐てお乳
をのむよ。あむくぐよトうふ金の沙ハ「おろうちゃん。いやく
おうろちゃんちいやく「ヨくさゆうくおうろさんのお乳
ハお坊さんの。おろうさんのでいぐりまをんねくおろうさんハ
ぢぐんをふおぎくをまうやいけまをん 金五「くくく坊やの

だろやく〜と　うらうひるぐ〜内へあきいま　今在家よりかくしまく。
えまいわ　さん　ろ
こ味線賀ふよりかく。　あ呂へ〜げる新つきふ　金五ふ　たんよりて
ふさんどうぞきこのう。ふつる新をしてあるのふと　いわきてあろう
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
「りくへどう。めいてませんが。今在きう〜かくうまく〜このサ
そしてあるのこへどこのお飯ごでござりまきく　「令十二かきう。松若
めい今日仲ろの君の付あひふて。よんところうの〜向ふ為へ。
ごまらん
は拝見と出うけて朝七へあ〜〜けと処が。女ふどもが大勢
で出う〜。ソレ　あ　て　を　と　を　見　を　え　と。ろ　こ　む　せ　う　ふ　と　や　し

さて。そ〜とう〜〜うんでも大ざうより。さのうおきへう唄へや
淳や　「ひ」迷そ迷ぬ。あのあてがれ。ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜
のあ　そ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ

あくをまきべこそ。彼の女ふ自もふ〜ん。ろこ一人を
ちうてゐるこ〜。何もたやお業〜ゐさるとへどぎるくゞサ
小三「ヲホ〜〜。そのおぢ〜め〜ゐ〜こうまこいけまど。今でハ自
かげのこの分中衣。おぢいさんや皆さんぐ。このかうゐを
とハ出来〜ゐ〜。只あるこぐうこぐまで。放蕩をあそ
おまるゐと。おぢ〜ゑんでごぎろませうこ〜。お宿のお首
尾ゲお大ゐゆ中衣。あんまろ出酒をあぐうまんと。あるこの
おゐふゐりまままへこと。そまこぐ苦労でゐりませんト

忍ひふあまる
ろくこのいけん
ゆまうちふゆ
私新二左もぐ〜ん。おゐころ〜の天之ゆ中衣ゐ〜ゐ〜ゐ〜

そんるゐ不粧ナふるゐ〳〵ねつてやらうとあるゐトちまるめん
へきせるとん〳〵へつあるう小こハのうものお徒ゞ志ゐ〳〵どうでもるさい。
ゐとあり人ハ日ぶとそ考へあうそれとして
〳〵ハかなやくあくうゐさるも市孝行でござりませうヤ
ゐんごろ凡ゞ変つて来うゞ。アあゞふ〳〵ねべよいがト。さう〳〵あゆへ
きんごろう
金五ハ〳〵きせるをきまし金十二市孝行でござりませう。おあ〳〵でお
ちゃ茶づけゞきいてあきまう〳〵ア。雨ゞ降ふゞ降めゞ。頼るゐ四も
ご
立ち入るのうトもりまくぢろ酒のうゞ我侭きまゝたのしちう〳〵ぢと
うち
月へかう〳〵う。乳母いうの付人今〳〵ゆと連て。降りかまど

きんごろう
金五市ゞ不機げん由ゐ不。次のゐみてあそだせて張こう
〳〵ゞ。ゆう〳〵とゐ〳〵出来り市彩遣さゐへ。今日を
おとうさゐの市機げんゞ。おつるゐゞございます〳〵れ人。何の
お徒ゞちでおのゆう不。おゐ〳〵るまうさのでござい
ます〳〵ト。ひべふさんハ十二サいつでもあゞざハる。市酒を
あゞるとるんゞの徒ゞのゞ。アゞ〳〵ー不必ゞだうう〳〵あう
しゐるのサ。さまふハんやくおゆ〳〵ー十さゐいと。あるゐさも
いろ〳〵沢あるお分由ゐ。おやどの市首尾ゞ大へすゞう〳〵

さ。お門でハ。ぶつひもるさるぶらう〳〵。ぶさ〳〵ふもうぶ
まくのゝひどころぶとおゝひるもうてゝ。ぶうでも〳〵
あのゝ。そとハ。ぶとろうでハ。日ハきて。ぶん〳〵ぶ
酒ゝ。上るう〳〵。まとハ。苦労でる〳〵るひよ。ぶる〳〵ハ
何といえまても。つね〳〵ぶ。ぶ。酒をあぶつてぶきぶんの。ぶ。ハ。そのゝ。ぶ。ぶるう〳〵よい
けどゝ。やつぱう。おもきさんハもあのゝ。ふ。ぶうふ。ぶうぶ
うりあうあるうと。ぶ。ぶる〳〵。ぶれゝ。ぶ。ぶ。ぶるよ。

ぶる〳〵。ぶ。女の。ぶ。ぶりと。ぶ。ぶ。ぶ

ちよつと寄をあけてくんる「ハイ〳〵佐分どん久ト
ちやうど あけとべ佐分へひろぶ久
いろ〳〵酒のさかなをのやめちとこで「モシ旦那へどうるさいまし〳〵
ヲヤ佐分どん旦那へめうあくあくごま「まイそのうへあく
ちくじり。久へるぜえやく かくんるまつさま。さつき
お出るまつとのを見とどけさつ。せつうく。ぐんナ
めんして。旦那のお好る一トトものを。仕らんでのつて
めへつとのみ「ヲヤさつ〳〵久。それへマアよくいそぐしへ
のみ。れをつけてあつまで ごらまいま佐「ぐんみ〳〵とも

旦那が。お出るさ〳〵わくちやアまでまつれくぐんる
この鉢のものや何ろん。旦那へのさつぐ〳〵。蛙さく
めつうまさつト さつるを蛙
さる舞妓の。振立まぐれこぐもるき。ふさんみつ〳〵く
あつちこつして かつうしぐ。振もるきくぜつのるるとべ。
又あつれべれまるるやえ。ぴ五月ごつて屋をぐるこつ。
ふこのりこへいつうしふ。ふこへ留るふて乳母ぢつ。升佐るつて
「ヲヤ若旦那さま。ぱぐつをまとみく おさく

しうござりまを　今さう　さうサ。此のあのぐ　あいちうと　用が　をろうて。
さうをり　ゆ〜を　れわんやつよ　うを　アノあるさぐいうそこの
あのぐ。お　様　とお　を　あそを　て。　おあくり　るまうさうう
ぢ　形　造　さえぐ。まをとふ　お　業　じるまうて　お　出　るさり
まを　今　ハ〜〜さうぐろ〜ろの。　ふを　さうをり　ゆ〜
るんぐ。アノ　今　日　ハ　どうぞへ　ゆ〜ろ　うを　ハイ　今　日　ハ　駿　さう
ぢ　ふ。るんとゆ〜の　倉　ぐぐ　まを　て　今　フウ　坊　ぐ　を
どう〜〜　うを　お　坊　さん　ハ　今　う　お　ゆ　ぐ　ど　ん　う　お　つ　と

ゆ　て　まのうまを　今　さうろ。　ふを　ハ　ま　を　れ　ハ　ま　を　れ　ハ　ま　を　れ

ゑりません。そさいとうとあ豆腐さゑへぐんるゐハ
ゆでもまでもぐぐりません。法彩選さゑが吸ても
煮ても。あるさのるゐのくかぶ葉じるもうて。そさいく
法黄芽のやもまるるとそへぐりません。そのう
法仏根をありひ出うて。ぽるるさもどふぞあんきう
出れを。おるませあそさゑぬゆうふるもうてぐ
さうまし　今「イヤモウかまこさても。ふくとおすふふ
こでいるまし。ぜふるまで出ゑのふもとのふもの

ぐさけとのやるゑ煮しきの物をきるのぐるこ大さのの
女るどいるうくるだぬ仏ぐそとおるへば。一日片付も
つとあをさせるれいわへが。悪いぬぐちゆ文悪ゐるく。
黄芽をさせるゐ丁寧そうぐとふうとあとに男法おうう
粟門のうろひの清水。料理おんゑ清水入まうて「イと吸
らのあのぐハ　今「ヨイ清水ゑ清水ゑ清水ゑ。さアあぐんわへ「イ
法めんるせへトそぐへきうう　清「ヨ吸れるいわう
しゆへませんね。きつハかえぐぐうう。又ゑゑ打うあのしろい。

世界でも出来まいろう　今「とんざるをりの有りろの世界
どころう。いつもまゝめでさへわく出つよ。ちつとあのろい
世界へ。業円してゆゝいさんのの「見をまとめいるく
ふ万。くゝ　佐「とれこのるる。あるさぐ　お出るをつこのを
えとでけまして。ちよろひり　越向してめろまゝくろ。
ゆうあとのお多ろで。大きさ臭をあきまゝこのさ
今「ア　さろぐろころ。そいつア　残念ぐろけの。表ろし
その　加表れぐ　ありぐさくさんるゝ今ゝゝえぐめ

やうト　大海ありとるまふ。ぐひふさいろ
看をとろよせ　今五ぐいとこの君の
えらるよろめりて
おさへつしてぴとふぎやしくるろふけり
今「るんと結そや佐分そるんぞぴ。いろもくいそぐゝおろ。
女の丞人　沙ひまい　あるめ人のの「ア。そこぐのおつる
ものでも。老でもぎいぶん女四五ろるア。お老ふ孫斗も
いろゝまそのサ。まづ女ふ象ふとりの　晩表ア四を
つぶ
敷合して表やくさろあげ。おさるこの義衣裳を
引ろけの祝ろこの月を去のびをっらもくとぬけ

がけの。逸足出して阿弟まへあーけ。ろーじにツ張り
目ふりけぞ。てさきをこしてよりの天神。サアそとろーぶ
に表のらんさん。おりろ 糧の獺つごとのうちざえるを そのとろく 発覚
を去りひ なり来る。ふさんのあとより。殺せんしの
仁分三味せん 殺を脊 ちゆうちんをろーとみ引
さげ供をして来る ふこいとへ「ふまけ 仁分どん大きふ 法芸 ごくろう。
そんるーさ 此日来ておろとト 紙ふちいとひわつて「サア
紙で一ツ森でお森よトろせび殺生 仁分「イとへあーぐーさん

でぐいさそ。さあうるーぶ此日。ヘイ おやたそるさんさート
三味せん むことをき かくり沉。ふこい金立弟のそだくちろ「ヤよく
お出るをつてくぐさいさーこ。此月いるぜ さろたり。おいで
るさいさせんヘトくれをえてうちーぶ「ヘンあんさりよくも来ねく
のよ。来るるとりふうーる来ぞふ乗とべ。又うーむのうあきと
るのふ四五日 おとゞ来るろろろ。ろるさくるろてよろ
さらう。あんさり彩ヤふさとるろう。腹ふとこたさぞろ
つうとる。来ぬくとあるつてあきーめて乗ーぞ。逸を ふ

初めでいぢやアるろて意ぢをみるとゑふるろう。顔ゲ
えてきぶつのうろ〳〵ぢつたろう迷つて又らく「ヨヤだろう
しいるんでありまさん。清どんや佐介どんぶ少てゐ。
のふそんるるゆを「食ハテ人ぶ少てもえるゆるいてのコウ
ふこ。こんるる麻まやア徙ゲ赤さらう。おまも生まつき
見不どの。門房でいるろつてろけのい佐介。扱者妃や玉
ゆ茶のこあーもあるろ〳〵ぢあこ。えづろーいとも見えわくの
「佐介ころやア上れのゲ住むぶ。憑てもきさむのいやぶのろうサ。

ふこさんいやつぞりおぶこれぶぬけませんね「食るんの〳〵
おぶこどころう。ぶ〳〵ゲ喜して衣理といるりふけりぶ。
ア化さまるく〳〵と。無つてゆつぞりだろされるいおまぶ
「一生のあやまりぶ「ヨヤよろーくゆたろんるさいあるさ
らそるさーをお化ーるまろ〳〵のでぶぶまん「食そりやア
まるるぜぶ「それでも唄ふもらふまろ。ふゲ〳〵とく
衣々をたるまぞ。ろ〳〵ぬ仕地で苦労ちるとい。よくるさの
牙の上おぞるつ〳〵唄でぶぶまるまよ「モシトふこ苦労

きるのも、ままさんとこまうり。そまを、教へるをぼうず」
モシ旦那。ふこさんの、むいとのうこの文句のをてぐるまんよ
わくふこさん一ツ、むえれぐうけあろうてくめんでござり
まをそ「ふこ」るすんぐれ、おろしくもみい。服を供ぢやアあるま
いー。むえ素面るすんぐいのやぐられ「仕方」そんるすをおいひ
るさーぐたとちよつと一ツおめんるせくッレどのくどくく
るぐべとちをーぐ。どんぶり鉢アうのくく「今」アやろまーい
行とのふのぐ「仕方」ハ。ハ。ハ。わくふこさんサア一ワトいえとてふこさんの

るふある三味せんよふとり「るのまーどるを中れれぐうくそれとぐ長屋
もせまへもの「ハ。ハ。ハ。」「モウ」是でうんあんーておくを
「今」コウおつるものでの。おとも実ハとぐくぜくろくぐぐ。旅と
りくだ笑えぐいぐ。とぐくぜくろくとぐく様とのえまてハ一日も
わくのを「仕方」「その」とぐくふも。おくさんのやうるをくぐあり
やをそうーの。赤ッるハ一日も出せん。全体ハ旦那ぐうりいのさ
おめくさんぐあんまり「祖父」ぐいくうーやぐるーーぐ形ーくうき国ハ
せまいとふこさんぐうくうーで。れぐりあるでぐぜくせうト

ひさしぶりで　金　そんるくぜつへむこーのゆよコウそをとようやア
まるまわる　清　清　今の阿あまの　あさけ　あまぐち　みぞん　めあかうぐん　の二書目狂言をえるきわ人ろ。清学
清　の　あ　ふ　笑　て　の　ふ　清　十　二　の　う　弦　ハ　え　る　ー　山　長　め　人　金　五　ふ　る　ぜ
清　ふ　三　さ　ん　ふ　ま　ろ　ー　ま　ま　ん　小　三　せ　い　清　ど　ん　何　ど　人　か　ー　ろ　い　え　る　ー　久
清　ア　ふ　ろ　ち　ぶ　る　の　意　え　る　ー　さ　ト　い　と　ら　く　清　ど　ん
佐　分　と　ん　お　あ　ぶ　あ　る　よ　ア　佐　分　ヨ　イ　ー　そ　い　つ　い　形　ー　て　い　ね　ー　と
わ　く　金　こ　ん　ふ　三　そ　こ　ふ　ま　る　紙　入　を　清　ど　み　ま　ち　て　ら　ん　る。そ　ー　て
あ　ひ　ち　ま　げ　佐　一　ワ　捉　い。佐　分　き　ち　う　き　ち　る　よ　清　つ　て　や　ら　ー　ト　ま　ち　ふ　ア　ヘ　イ　見　い
ありまぐるふどぎりまきト　いでぎ　まぶ　出て行　金　ア　辞さ　ー　ろ　ふ　ち
どう　ー　さ　ら　ま　ま　ふ　辞　さ　ト　ぜ　ん　ま　き　を　ス　ち　ふ　ー　て　小三　ふ　ア　お　外　や　ち　う
ら　を　ま　ど　づ　け　て　ふ　ら　ま　よ　ト女　ハ　イ　ー　ま　ち　ま　ま　ち　ま　ま　ま

ゆうふもいうだ。お公づうひもあそだしまもうしぢつと
づけ酒をあがるまへ。お乳のうまとゆうがごぞりまん
まい。ぞんぞんお坊さんもよくおよろこうこう。若上敷のお
床をのべまもうこう　小三「そんなうこうそのふをうてうが抱て
乗ゆうこう。お床をとうてよげておくまと。金ゝ助を
いざきあくるふぞ。乳母いちの内六畳の座しきへ床
をとり敷蒲団を出して　モレ　若上敷さるへサアおよろ
ゆうと　金「ヲイ〳〵。ア　いうふもいうだちあがうて
下蒲団をうふうて床へ　金「サア　おつうも連れ入り坊主
おまがぶして寝ようう　小三「あるまがぶ抱ておよろこうこう。そまま
こうそうぶしてお寝まひるさるぶろう　金丸「いるう。つぶしても
あまのふぶろう。ぶれも何ともひ人ハれへ。万一お
まがつぶ〳〵こう。又いのをこうらくるまと　金の公ふをとり湯をこる
小三「もきるゆをあつしまるよ。アレおよしるさへ。ちんる
ふりするとにをさるしまん。起しちゃアこうこうぶり
まも　金「ヲイ　起しゃ志ゆ八ちちあつと使てくまとおりふ金の公

ヱてよく森坊をしかりつけてあとに
ねくらぬちよくくくト くまぞうみまる「アレおよしなさいとり
のふ。森るさきへ立て 起しちやアいけませんよ 金「くくし
そんるゝ 乳母の処へ行て森ろ。今月をさるゝして泣出
をと。おつゝアの所のゝ 牝ア ふるさうゞト わさまそうぞの もへつるさせば乳母
を金の かをかき抱きて。次のるへ入りてうち 外〜
ける

假名文章娘節用後編中之巻終

假名文章娘節用後編下之巻

江戸　曲山人補綴

第六回

ふこを乳母や下女を外しめ。行燈の側ふつくねんと
ひとり 行やう抱楽ドの。新うちるゞる金五郎「コウ小三
郎をしてあるのゞるぜ森ねん。又抱病でもおこつろト
ふこへろ「くく工抱病でハあるませんゞ。つくゞくおのひまハし
とりき
まゝと。あるのるゝ苦労ふるつく 金五郎「るぜあまゞどふ

あさ「ヨとよう法師でゐるつて市酒をぬ法師の坊ふあづ
ゐまいたらう。あらくぐそまどがつをさらつい　今年ぐ「フウころつつこと
あまどがあんまり。酒を呑ざうゐ好ちがるひろう。形もそ
らうくを見ひまつをとぬつまり〜れんのごと巻わがつ
きてぬそまどが著勞ふるのでさらう。ウ〜そうざらう〜。いや
ふるろ〜ろいのやごとりん。あるも男ごまるまて男ちを「ソレ
そんみ色程をあつしゐろう〜。そまろ著勞で片附も。ゑの
やもむ分からぶりません。大のとお家のお屋えんふもゆつ

ぬり市色程をあつしゐりません。そまでいろふぶぶりまん
今「ゐんのゐまとあ〜くもれん。そんみつまり〜れんゐを楽ごぶと
サアのふ療れんろ療るがりくトまとのだて「アレまりご気りのも
気ろくません。今「のゐ。気りのハそまでも丸ハトのひろ茶を
とけがゐまーげふ上気をぬ下気のまくふ気をふて頼こあ
ハせてとがひふゐ。今「コレふ三そるのこのれて彩るをり。むふ
そまのかまのゐ。とやろく門でいふゐ色ふのつひきるゐ〜れ
気程ゐりでまがく〜法ハうけ〜ゐと。松ふ機ハえろ〜まぶ

そなさふまきうと犯げあらふろ。かのゝをそなとを表ふゝ
れくげの。ゝ祝を捨あ刀を捨て。矢立をさゝて町人ふ
るりふとあるへば。一も二もれくなるとひ世界このふ ふこ一サア
ちまとぶいやさふ苦労ふるりまん。ゝあるとぶ金ふふが宿
のふそ尾のよのやうふ。お雪さんとも お中よくこるみさるふ
伝兵衛さまて。ゝとうゝをもえまをてきえんどきゝれど
ふのやうるせうるいろゝゝをしてもおゝものとひへいと
ゝませんト さんじろえゝ女のこえ 金五ゝもありひりて あるもその実ぐろを

えれのてあるふ。世界ゝまて門へ入るてえんとなるふけまど
何をいゝても表ふのるゝしき。むゝゝの男るゝいき
ゝきまふ。おゝけえまゝく更帰ぐがゝうて今の男の
えぶ。ゝひまえせをつゝゝれえトぐるゝをゝとうゝ
るぶ。つい約ふるりてあるあるふ。安のゝうゝみぐもたゝうゝ
伝ふるのもるゝれのもえんる約束ゝくぶれえゝるもふ
よぐゝふるるのゝのふふ。森へ逃入て又いゝ美でも待ふト
ぐゝと引ゝを いゝるゝるゝや知るゝん。在所者ふ。源兵衛白幕を

金五郎が日ふまず放屁つのりて。あふとそい居しざるの表
表又文次郎えどあ家門のあ。一ぢの紙をしこう
しが。お雪もあや十五ふもるりうまべ金五郎と婚姻をむす
だんふ。ちりいは迄も正ちんと。頻ふ花をきめしつべ。金五郎
い心るーぞも。殺れいあつまでとも。お雪ハまご年もりうぞ
殊ふまのるきおやこれるれば。とみのく有りろうぬん
さるぐらうんどるーそい。ふこがるもとんるふりのく。
えやくも二とせぐらり立ども。行方知の止ざりけも。張屋

仁兵衛ハ花を結ひ。文次郎支拂もお雪の仕めとの。あるき
由ふ金五郎が。門ふ居りるぬとドふをの人ど。ふふきまん
実りるが子の丁毛さふ。金ぬりるふ毛おやつきん。我あるうち
ハ長屋とも金五郎の為をかり人ども。りくるどもるく表
敵ひ。ちそふ。後めりるーんと。老のふをりとあつく。かりひ
あまりてをきをまふ。ふきんの名而妙ぞ。ぞりの中を
きぐりーうん。花を伝て振切らせ。るふ表む金を出。支
ぞーぞりうんるりとも。片有やりんと石案ーり。金ふ

帝ゞ書まゐらせ。諸所へ出て留守の日ふ。ふこがりとへぞ
ゝ
張れ申きゐ。はしも文月上旬。ふさんハまでる中形の。四
ゝとふ茂ゑのゝゝ多りゝけ。黒絹子の革ちどけあく人。
あゝひ髪をゝろへまげ。振袖へ出く金の分の。紋かけ
を縫て羽ゝる。ゝゝ表ふ人ありで。このむくゝと楽
内をとふふ。ふこハハイとの人ゝ
三どのゝお宿ハ。変ゝ「卒ふ」ゝふ
ゝとゝゝでとぶりまんゞ。あるさいのふえるとあかめ。

どゝゝゝ出るとまゝ。一ハアこんるゝとるゝさふゞ
ふこどのゝ。ゝハとるゝさみふちと内ゝ出しゞあつてうぞゝ
来まゝこ。ゆるゝゝゝとゝ「ゞのハとるあとこと
ゝ
ゝ出ゞゝ。マアゝこゝゝ人おゝりるゝとひまゝト「ゞ
ゝるゝさゝの名ハ呼れてより。ゞてハ居ゝど来ふハ来ゞ。
ゝゝハ金五帝の紐又ハ帯とゝふのでゞるゞ。今日ゝぞゝ
来まゝこのも。帝のゝゞでもゞぞゝ。アノ孫の金五ゝ
ゞゝ。イヤのゝゝゝゝゞもゝハあのゝゝゝ出を。ふマア

丁寧ごうてゆうてくださる。素分ふとろてハうまていとものこ
じけるいとも。礼ハ何ふそまあぬ。その係切るこてろを見送で
ちとさのこゝとこるゆうごぞるト。夢よりハ小三を狗ふ行。あと
公ふ寄越ー。いてハせんと思ひしゞ。今きゝ家どろくるふ
もあゝこ。かねての見ないろそとおひ。狗ふ食あろー
礼をとり歩ー。茶烟草盆を出ーつ 家人 小三 ふ
ろこてもふ且那 さるのお出ーふく つねぐろう。
法号きをとけまりまりまさあるこのる。お目ふかり

まんとうたてめてごぞりまこと。素分の狗ふ伝まこてろ。
おうまりうごぞりまん。ようマアお出あそゞまこトふネ
つくゞ 仏壇 イヤあまりよくもまあゝぬて。ぐ拝ぐーとりひ見
まり。家臭ま食ろ位の。奥方とそもまゞうゝぬ。人ふ
まぐまてこまとつさ。いろるる人の分の呆ろ。又まべ見ろるど
うゝこ。ぐ家いるの逃ふまりうまもひとまさんを
肉へ入まてさるゝ。孫めゞ尾も落つくあらうけまど上へ
のきこ元世ろるのまりゝく。笑理と人月の徑かこるさ。

このことのふる事のる。和つてるうい者〳〵れども。金五郎
いろ〳〵ゝあふる。悪敷ものの一人孫世ゞ世であるる。
世間ゝ世ゞ世も仕ゝ者ゞ。ゝ〳〵係いのりまろあつて。
あるゝ者ゝ家出る。そ才ゞ今での家督。その妻子
とゝりゝ金五ゝ。あゝの他人とりふでをるゝ者ゝ。
子と名のつくゝ者ゝ。ゝりふよまろせぬ世るの人目
あの振のお言とゝくるを。要金せねゝるゝぬゝ多金ゝ
弟もふせゝりゝ。ゝりやくゝらのゝゝ礼ゝしても。お重ゝ

まゝ子供同様で。ゝりゝくゝるいゝゝ定時も。門ふ長ゝるゝ
ゝろゝもゝん。ゝりゝゝ孫でゝふでをるいゝ。世々ん人ふゝ
ゝらまゝて。そゝ者ゝのゝ子ゝゝまゝ人ゝゝるゝ。ゝ性でもゝ
つゝゝ。今ふ歌ゝゝりゝるふやまゝ女房ゝゝんのゝりゝ
同様。そゝ者ゝ後ゝ名ゝゝるゝん孫。ゝりゝ金のゝるゝちゝ。
内ふの者もゝりゝふゝんゝゝで。金五郎ゝゝるゝゝいゝ者
ゝも。ゝゝゝゝゝりゝゝも老人今をもゝゝゝ分のゝ人
内ふ。ゝゝゝゝゝ後ゝ金五ゝの分のゝゝふゝゝゝゝもゝゝ

小三行茶屋
ちんどて
金五郎屋
凍

うと。業ゞるせゞ衆の者も疎らまゞ。苦労で寿命も
ちゞまるやうゞや。こんなゝりくふさう思とも蛇とも蛇悪
るさけのないみと者ゝうしやらうゞ去実あとゞ
あくもるくゞ門の脇のお書の中ゝ子どもの一人も出
来るまゞ。きざうてゝいこゝ。さまこゝい世界のありさく
もよう。又子どもでも出来てくゝわとるさんを門へ入ま
ても大ゝるい。今金五帝ゞ義理のある対でらまこを
門へとゞしきこゝ。邪魔位のるゝ世けんへもるゞ。

ゝをこゝゝ合点して。ゝゝのうちを辛抱して。ゝひ
きゝて。ゝくゞこゝ。りそのうちゞ物をゝくゞとる
さんの心ゝかるゝゝゝる。身のゝゝ為ゝよい処をゝゝこゝの
爺ゞゝゝして。孫外てを世ませう。さうもうやとゝ
の身も養つき。ゝゝの人のきゞん気づまをとるふも
及ゞゞ。せゝてゝゝゝゞ礼ゝ。家ゝ来ゝくゝをゞゝいとゝ
らふこを
をこけ のゝひきゝゝね義理ゞゝのゝこゝふゝやこいまを
わゞ。ゝてゝゝゞ身のゝゝ物を。うゝ吟んこゝ。ゝひ

しゞ今さゝ素性を聞しゝるだ。えさげらをとり詩ふ
又金五ゝのゐあゝうゝんと。あひひさでゐ小ゝ「じゝんゝくのか
とのくらけ さまゝり。行とゆ さんやうもゐく。大ものく
ゐあ且那さゐを。人ふゐくいゐをせとり。あゐとゞえいろく
ゐ。市兵衛とかけまゝさもこんゐゝとゝゝ がいとゞゝ
ゝゝつゝゝと罪でゞぞりまゝた。あゐゝ るさをとゝとゞ
さいまゝ。そをとをマア あくいとゝもあゞゝ めさゞ。紀乎ふ
さをくゆりこいとゞのゝうてゆさゝいそのおとゞだ。あゝさい

るいともゐがこいとゝも。ゆさふゆういどぞりませぬ。さゐゞゝ
ゝとゝうゝいゞさゝえふゐのゆうゐる。けゝくうゐ処ゞとぞり
ませうとも。糸ゝくのぞこゝとどぞりませぬ。兵ゐあ且那や
こゝゐさゐの。おゝゐふゐりまをゝゐゝべゝとゝえゝがをゝく
死をまでも。ゐ門つゝり ゐひ切ゐをうトいゐも うゝ声
ゐゝとだゝりふせきあげて。正体もゐく泣あゐこゝろの
ゝちぞいゝゐゐゝん。紀翁もとすゐ「ゆ」ゝく マアゝくおりひ
切ゝゝゝぞきゝうゝとゞかゝとゞけゐるいぞゆふさんどゐ。ゝのかゐ

しきとうるがいのもとふ。今日祝てとのまふろ。明日祝てい
つふうと。一日くくと見合せてゐ。どふでいひ出されぬ果
しがつくねば。公を暮ふーてうぞく来ぐ。さぞあくら
らうが見も対のしゐ。うきせの義理の給めとるさ
老の対ふ後生い祝ぐ。孫切りふ来と罪つくり
ゐーが狗のせろるさも。ちいやうしてらどさえよ
らのるとくと承知るく。くふあをとりふぐくもるい
らろまうせふいうるりと。ちるるとの対ふも怪我の

るいよう。ちぎれよくやりてらどさえトいひてゐる〳〵「金五ら」
とい縁切つても。ゐーいやうやり孫娘のとろ。との後ゑ
ぞ不自由あくだ。ゐるくぞくく幸ゑるふ。ゐんるりと
きうりつてとさろしやと。ちるさんの対の義つくまでい。
いろまでもゐーが貢まんぞやと化人と祝爺が。やさしき
と系ようえしきあまり。かるしきやるせるきまくふとかく
のいくくえもせど。ちうろ肝て泣居る。その心根の不後
さを。おりひやりつて比爺も。老のるくどふかきるえしが。

心よるくて明るまでと考ひ煮て〻入りる。ふきんも
ものとりお雪のゐを。夢てゐさゐ来くい中を新
まんい必定ゐり。り縁切〻ゐるゐとゐ〻べ。生をゐと
とて早費ゐき身の。別とて〻き日を送〻んより。死
して苦患をまぬうまんと。てふ覚悟をきろゐ〻も。
せまき女子のところ〻。略呼見非もゐきゐふとそ。
ゐり〻ゐどふ乳母のお乳へ。うゑ子あゐりの一五一十を。
次のゐまゐ物ゐり〻。ふこの狗の世ゐゐきをさとそと

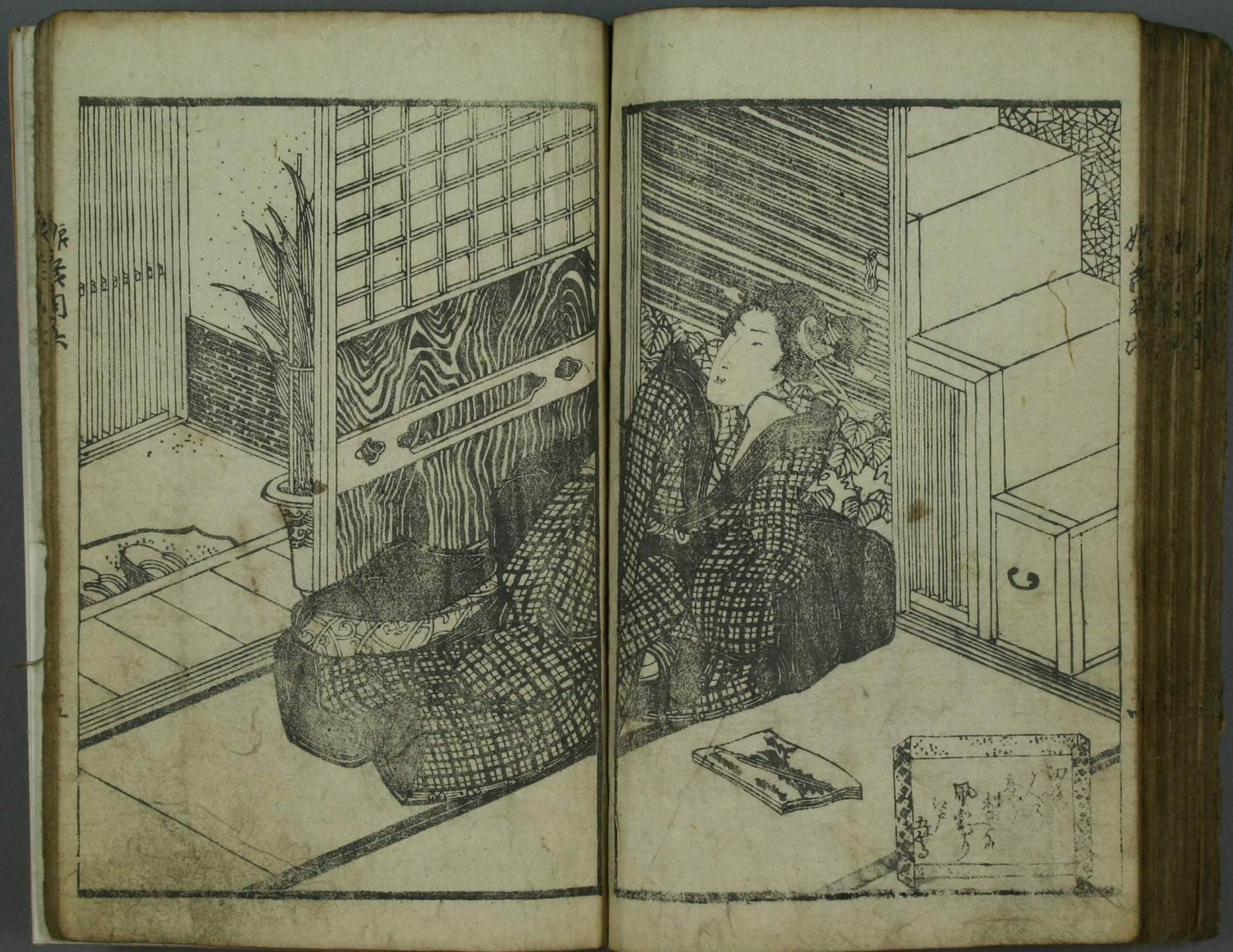
ありひゐゐどふ。おのをもとも狗のうちぷゐりさくゐり
のゐ〻きをさと〻人て去のび法ゐゐゐ。今いゐゐくと〻人
かれて。ゐうとだゐりふきゐ出ふこのそくうゐ「りあゐぷんご
ゐふゐりきーとれく。あのゐりふマアうゐ〻く。かいそをと
お更食ゐきゐうとへどふりふ。ふゐ食点ゐまゐりませんか
ゐりうきんのあゐゐゐを。ゐぜゐちぷてかゐ〻くごと。ゐうゐやらね
のでどぎゐりまをを。ゐまでゐ〻とゐる点中と。お少ゐきゐくと〻
お祖父さゐも。毛ゐゐ切をゐうとゐゐ〻ゐまいふ。今若

旦那と市郎を呼て。どうゐきる者ゝ。
お坊さんが呼とゆくへどぎりませんゝ。あのかみさんのまへ
お業じるさゝぬゝ。マアどゝいふかゐでどぎりませト
大へんと有ふ事ゝ。心を付るとゝ夫ゝ。乳母ハかくこそ
ありとゝ見。ふこへるこぶ「ゝ」ふそるとのいふまゝ。ゝまである
男を呼まるゝ。せゝるのゝとも。ゝるゝ。拘の中ゝたり
さくやうで。そのゝるゝさへ發へらまゝうゝ。そゝとゝ思ふ金ぢうの
あるゝちゝり阿ゆゝとゝ。男のゝふい紙ゝゝゝゝ

男ゝ呼ふ付ぐるゝゝひ。ゝる者中ゝて。あのゝまでお
ちゝ人引ゝゝて。若旦那も今まゝよりハ。ゝゝ苦勞
ぐ場であらうゝ。二ツふハ又ゝゝもあのゝを。ゝ
てハゝのゝゝもゝ。ゝぞ日ふまゝゝゝゝゝ。ゝゝん
らゝいぐらひ出ゝも。ゝゝたりゝぐひのゝたり。又ゝ旦那
と縁切つゝて。ゝゝゝやゝふどのゝゝゝ。男ぐゝゝと二人
とゝ。別條をかゝゝる氣ハるいゝゝ。いつぐいつまゝもいまの
ゝゝふ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝも男ゝり今までの

とうりふ。金切の世話をしてかうをよと。いふもうるさ
目をとうりうぐ〳〵「まことふあるさのかゝの中を。推量いと
世いこゝろぢ。ゝゝくーの狗もたりきくやう。ある祖かぢう
さんのあるうをかくーうるさ。涙ひかゝ。さて今日ゞ
ひどえん
日は縁ゞきまても。一生別きとりふでいる。ゐんの人
目や深世の義理と。お祖父さんの先刻のかとを。き
らーの法華抱でぐりませう。又かぢうさんのうを
あるーあるまでもう。だゞかし涙るまうとものの

ゐんで他人とまひませう。りつとゐゞうとう。產ナ
しとおぢとぜんゞまゝ。ものゝ。さんどの中うを苦労をいと
しても。お育てゆん乳でぐりまをうう。ちつともお楽じ
うをいまもる。ゑう〳〵弓且那の。おゞきとう
うをあるさいゝ。ゝ法苦労あ七たゞうとゝそゞゞ
おいとへーうぐりまゝと。ゝうるぐ。ふさんも浴衣
の袖を目ふ小ゝ。ゝうるさ。今度の縁切りゞ。一生の身の大
ゞ。ゞ。ゞ。



ゐ。天乃さゐも見どゑ〜ゆ。今日いろふ明日いあと。
その日の風ふ任せるだけり。せうをつまろとちのとと。
又和ふ公業もあらうろ。そをを業ふてくんゐ
さんゐ。今ふも為且那ゲお出ゐるろうてもかゐ〜びろゐい
新をさゐいで。今お祖父さんのお出ゐるろうとゐも。
お考〜せヤちやアゐるのよ「そをハ衣とんでおりまゐ。
ゐんぞお祖父さゐのおゐのことで。お前のゐゆ為且那
のおゐとんナレゐゲ〜。常ふおろうてあるとのれき

づよきお考ひきりのよさとりふものいあんまり見ゐで
どぎりまをろう。どふも食点ゲまゐりませぬトいハそ
ふこいろと一
ろうこく 死をる覚悟をきゐ〜きゐ〜じと
ふこ一アイタ〜〜〜。今のゐゆ〜で持病の疝
ろう 疝もをるゆうゐトまゐをえて
つぎ 次のゐ人立て引て。金の外の
ろ ゐ
えろどゐ〜。ふさんを考ゑ一
ゐ 森ても眠らるゲ。只拘きのこと
ろきて。ゐせんゆく

やとさるべくみ。ちひるやとしをりくふ。隣なる家ふ
てゐるものども。二三人ふて声をかるゐ。浮世だゐのいろく
ゐる。中ふ一人ゲ「コウ八さん。おくへかゝげもつふふみどつとあ
いひけるい
あぐりの女をえとろ「フウえとろ〳〵。二十三四のゝ女ざ
つけ。あとゲどふしと多でもよとろ「だろアいひれ。
アノ女でけるる大強勢ゲあくさアる「ハテノまさ逃でも
しとのろ「どふしとく逃さゲ〳〵ゐる〳〵ゐくまで首をて
つて往生しとアる「そろろうとんざゐをやら

かゝ。このそりゐアマアどふのゐ泥ど「歩れ人アノ女をの。婦
ゐ川の女房ざゐの。ゐる処の息子ふ惚てくゐとゐゐく。
ゐびひゐ丸をあく〳〵合て来ゐ女房ど更物ふ丸らうと。約
束をしとゲ歩れ人。その息子ゲかゐ人門ふゐアのゐゐ惚ゲ
あるんどアゐ。そをとゐんでも涼くゐくして。まど女房ゐれ人
ゐ〳〵。清盗ゐ〳〵とゲゐうしとゲ。大ふでうよ。そをとろくゐ
ゐ人れ験ゐ。金まゐりもいゐんざゐ〳〵。祝儀の金をひん
盗んで。ゐ交をしてゐとゲ長屋へ連て来て囲つく亜て

の女房にてきぬ。のこ〳〵ゑまれわくろう。就又かな
おとりでとぐ〻人者の。田舎へゆるのとき人りんちわくる。
ゑとゝ処ぐあの女ハ。女房ふれあられよく出来と来て嫁ぐ
出きるとてり就又ぐおとろとのを夢とサブ乳をんでく。
息子ぐ不持といふりの。嫁を出一ゝり門ぐあるも。
こんみるてぐあわまりと。ひどく嫁ふ乳がれを
しで。生ておちゆ。ハ方八方。先ろくいろわくとゑっと
そりて。ぞろ〳〵出をして。首をろく〳〵先んで

おまつとろう。嫁も物るし〳〵息子もそまろう。ゑかとぐ
わくろう おとゑくゑまつぐ。ゑんとその女房へよろぐと
乳ゑくるので狗ぐいふ。者一貞女とりの女ど △ゑんふ
女のかぐことのふゑ滝伝一百八人の中よどうろあるそう
ゑ豪傑ゑ女ど。ゑるゑど女ハ魔のものて。ゑ面倒
菩薩門ゑ如秋双ろゑんとろ。仏さみぐいとしろと
ゑろう。就いろ〳〵ろても行魂のおそろしいのぐ
あるものど。ゑろ〳〵あの女もその息子の。一直思ふゑ

ころ〳〵。男のあや傳ろを名ろて。死んだのへあつ おろを
名ぶ ぬろろ。おゝいろる首をくろつ ぶろろ おゝ ゆんぶ。と
ても死ぬゑゝのさぎよく。刀を投るもちろぶろ。利
刀で咽をぶろと出ると。鏡ふの 尾とときそがうぎふ
きいてあるぜ。「さうよのふ。そとぶ出ろ れぶよ
ゑいろ〳〵。利刀で出ろ〳〵いとろうとあゑて。そつ
とのぶうろぶ えろともゑろと。「さうぶろうく。そを
ぢやゝ出ろ。その息ふの。面よぶでろ〳〵ろを草

どの。ゑんふ死ぬのもよろゑどあんべえものぶ。ゑんふ死
おそろしやく。「ハテ世の中ふも似と
ゑろ。あをびあろゑの。今のまゑ〳〵の出ろまでいたの分ふ
似とのも辻たろ。あきもあろまも世ぬ中を広ふ ゆゑ
あいそぶろ〳〵。ぶろうゆゑんとのろを出う。死ぬる今死ふ義
且那ふ。お板をおゝせ出てい。浅の世までの広がり。ひとろ
蓮もおぶつろゑ。ゆゑんと世ろう 彼と世ろう。ド ひとろ者の 金
の分ハ押女のお仲と。のぶ〳〵ゝ入れてあそびあろぶさき

紙袋をきゆるとき。ちとちがひて。ゆり来るゝ。ぶるゝ。ぶるゝ。
ゆふこゝや乳母が。ゆふゆゝゝゝ

きこえぬ。さぶろうさうろう。繁を洗いあけやぬアのみ「おとろ
ちゃん。今ね。よるとのおちいちゃん来て坊こちろう立「ナニ
おちいさんが来て。そりゃどことのおちいさんぞと自元おこ狗
とぐろくをそろうさぬ新で「ナニヤ」ろんでどぐりまんよ。矢飯坂の
法張飛さんが出るさろう立あでどぐりまんぐ。このみいろと
とろどろうて。どふもありませんヨあこと「ひふ」ろろ「ひふ」ろろ「ひふ」ろろ

ろくろくとあれを休めこのでぢうまんがうとうしろへ
あるくとのお乳のつふるいおきのうるさおお乳でも
ぢぢうまませぬう「ナアニ」おまとのいとうわ人物めくろくぬきふまぢう
迷ふるのるとトにおいのとおふ何うまくの苦労物
の中。云れいのふ弥惜て。ねさうつきめぢ「あるこちと
お乳ぢうしふ。法酒でもおあぐんるさいませんろと「いやく」酒
ろうへマアちろと森ろう。全体ろ人番ぢろうどうも来ると
わ人処ろうけぐきのんもかいも来わくくう又業ぢろと

乳ふるつてそまでやうくぬけて来このよ。一ト森入やり
さうく来るぢうろうト「のうふこ。実ふ人のいろ
生へ。どうふるるのうまれくりのざの。今どうろ形してそまう
とへ。からア義ふも乳ぢつろわくよ。来とかけて夫婦ごとふ
名ひおすへてふ。お雪とりふ悪魔ぢ。逃入て。苦労をさせる
せうるさつくき。更ふ来ふらそ祖父さんね。あ親へいち侍
乳ろわ。をるとりふる。ろうる世人世の中ぢのふ「土産ふ
マアお雪さんのるを。とやくとろうしやるぢお雪さんと。

大ゆめのくかあのお娘でこぶんかうて。あげてくださいまし。どうで私ハ日ぢの光ゆ名どうあつてもようこうぐうまもとう。そんなゆめちとちかんをつつて。必ずてくださいまもてゆ。そもそも私ハ若ゆでくるりよせんと。志ぐ〜間ふくと六ツの。うれの身ゆまやまどうまんと。金五郎ハそふうち外る。是より本こ金五郎ゆあのそづ〜とうゆ来ゆ刹りゆべ〜

假名文章類節用後編下之巻終

稗昏必

不讀可